



学校だより

No.543

令和 5年 1月10日
練馬区立田柄第二小学校
校長 岩井 一雄

教育目標 : 元気な子ども ・ 考える子ども ・ 思いやる子ども

今年もよろしく願っています

校長 岩井 一雄

松の内も過ぎたご挨拶になってしまいましたが、明けましておめでとうございます。本年もどうぞ、よろしく願っています。

さて、この冬、少しじっくりと新聞を読み直していると、「道徳の授業に正解はあるのか」と題する、16歳の高校生の投稿文が目に入りました。

小学校のころの道徳の授業で、友達と大げんかをした主人公の話が取り上げられた。その友達から仲直りの話を持ち掛けられて、物語は終わる。主人公は友達を許したか。級友たちはほとんど「友達だから許した」という意見だった。しかし、私は「仲のいい友達ほど、なかなか許せないのではないか」と感じて、そう発表すると、クラスは私が間違った答えを言ったかのような微妙な雰囲気包まれた。

先生は「本当にそう思いますか。あなたはけんかしても友達を許さないのですか」と私に尋ねた。「道徳は答えが無いので全員違う意見で良い」と教えられていたのに、私は結局、皆と同じ意見だと答え、それ以降は、道徳は私にとっていかに級友たちと同じ意見を言うかの授業となった。・・・道徳に結局、正解はあるのだろうか。

(令和4年12月23日 朝日新聞「声」より)

上の投稿からは、主人公と友達の間に、そもそもどんな出来事があって大げんかに至ったのか、という物語の大切な部分がわからないので、一概に論じにくいところもあります。しかし、もし授業の中で、

- ・二人の気持ちは どこですれ違ったのだろうか。
- ・相手を許せないと思ったのは どんなところだったのだろう。
- ・主人公や友達にも 改めたほうがよかったことはあるだろうか。
- ・主人公と友達の立場を入れ替えてみたら 相手にどんなことを話すだろうか。
- ・友達はどんな気持ちで 仲直りの話を持ち掛けてきたのだろうか。
- ・けんかをしたが、その後、仲直りのきっかけがつかめたという経験はないだろうか。

というような、子供たち自身にじっくりと考えさせる問いかけがなされていたら、全く違う話の展開となっていたのではないかとと思います。

物語(教材文)の特性をしっかりと理解して問いかけ(発問)を吟味し、子供たちが考えを深めて自信をもって表現できるようにと願って、田二小では道徳の授業を組み立てるようにしています。

世界情勢が激動していると言われる今だからこそ、自分の見方・考え方を明確にして様々な意見を聞き合い、交流し、少しでもより良い方向を目指す経験を、授業や学校生活を通して積み重ねさせたいと思うのです。

1月の生活目標 「気持ちのよいあいさつをしよう」

「おはようございます」を発する人がいて、受け取った人がお返しの「おはようございます」を発信し、はじめに発した人が受け取ります。気持ちのよいあいさつをするためには、発する人と受け取る人の両方の気持ちが、明るく健やかであることや、あいさつを発する人と受け取る人との両方が、“互いを思いやる気持ちをもつこと”が大切になります。ご家庭でも、「あいさつ」について考える機会があるとよいと思います。